

秋季研究会 第2分科会

(研究の柱) 学校経営と教育予算
分科会テーマ

学校経営と教育予算における業務改善

担当：第1ブロック

1 目的

昨今の学校現場の業務改善の流れを踏まえ、今後の学校経営と教育予算について考える。

2 内容

・概要

前半は講義形式で、講師として福井市教育委員会事務局 学校教育課長 小林 真由美様をお招きし、福井市での業務改善の取り組みについてお話いただいた。後半は、「学校のいろんな課題を学校予算の面から事務職員として業務改善できることを考えよう！」と題しグループワークを行った。

分科会を通して、福井市事務職員部長 小林 利幸 様にもご参加いただき、グループワークでは小林課長とともに各グループを巡回し、ご意見をいただいた。

・日程

- 13：00－13：05 講師紹介
- 13：05－13：50 講義
- 13：50－14：00 質問・後半の説明
- 14：00－15：10 休憩
- 14：10－15：10 グループワーク
- 15：10－15：20 休憩（発表準備・各グループ見学）
- 15：20－15：40 各グループ発表
- 15：40－16：00 講評（小林課長）・お礼の言葉（小林校長）・アンケート記入

・前半

まず前半では、小林課長に福井市の業務改善についてお話をいただいた。

まず、多忙化解消の取組について、多忙化解消推進会議の発足から実施までの流れを具体的にわかりやすく話していただいた。今年度、福井市では「お盆閉庁」「ノー残業デー」「年度始め休業の延長」の三つの方策が実施されたが、実施に向けて行われた関係諸機関との調整のことなどお話いただいた。

また業務改善の意義や今後の展望も話していただいた。業務改善というと、ただ仕事の量を減らすことと考えてしまいがちであるが、「業務をよりよくすることが業務改善」とのことだった。ゴールを短くするのではなく「本当のゴールはそこにあるのだけれど、そこに辿り着くまでの回り道をしている分を、近道をしてストレートにそこへ行き着くように考えていかなければならない」とのことだった。これまでの「長く残っていることが熱意だ」という考え方を改めて、早く切り上げて早く終わらせることを自分の力として育てていかなければならない、ということだった。



今年度の計画としては、文科省の「学校業務改善アドバイザー事業」を申し込み、先進地区で取組を実施してきた方からアドバイスを受ける予定とのことであつた（11月8日（木）に学校給食の公会計化の研修が行われたが、この講義の中で「興味のある方はぜひ」とお声かけいただき、当日には27名の事務職員が参加した）。

また今後の展望として、学校行事の見直しや協働体制（校務分掌）の見直し、予算の管理・執行方法の見直し、地域人材や学校職員の活用などについてもお話いただいた。

最後に事務職員の専門性についてもお話いただいた。事務職員の専門性としてまず「お金・モノ・人」の三つを挙げ、たとえば「お金」はPTA会費・配当予算・補助金などをどのようにコーディネートしていくか。何のためにいくら必要でどの会計から支出すれば一番良い使い方ができるのか、どんどん学校に意見して行ってほしい、とのことだった。

「モノ」について、学校全体を考えたときに本当にそれが必要なのだろうか。教材も備品も消耗品も、学校全体として何が必要か。今年はどうしてもこれだけは揃えなければいけない、学校は高いお金を出して購入したが、それは活用されているのだろうか。活用されていないならそれを使いやすくするにはどうしたらいいだろうか、ということを進言してほしい、とのことだった。

「人」について、学校には先生や支援員、保護者・地域の方々と様々な人が関わっていますが、その人たちの声をどう拾うか、どう動かすか、どの人とどの人を繋げたら良いか、事務職員の見線だともっと冷静で鋭い判断ができるのでは、とのこと、そんなことも進言してみてほしい、とのことだった。

以上の三つを事務職員のプロフェッショナルとして、「私が管理職としてどこかの学校にいったとしたら、事務職員にはぜひこの力を貸してほしい。今の管理職にも進言してほしい」とおっしゃっていた。

終始なごやかにお話ししていただき、我々事務職員の立場にも親身にご理解をくださり、勉強になると同時に、これからの仕事をがんばろうという気持ちになった。

・後半

後半は「学校のいろんな課題を学校予算の面から事務職員として業務改善できることを考えよう！」と題しグループワークを行った。このグループワークでは以下の二点を目的とした。

1. 学校の諸課題について、事務職員が携わることが多い予算の面からの改善策を考えることにより、学校経営に事務職員としてどう関わるか考えるきっかけを作ること。
2. それぞれ抱えている悩みや課題について、地域や経験の枠を超えて意見を出し合い、今後の実践に活かすこと。

内容としては、自校での悩みや課題を持ち寄り、その原因をさぐり、学校予算の面からの課題解決策を考える。現状把握をし、可能な改善策や経験者の過去の実践例を参考にしてもよいものとした。そしてその改善策を行うにあたっての課題と期待できる効果を考えた。持ち寄り



悩みや課題はどんなものでもよいが、ただし改善策は学校予算に関係するものとした。

持ち寄り課題はどんな悩みや課題でも良い、としたものの、学校予算の面からの改善策を考えるというグループワークの性質上、どのグループでも予算関係の悩みや課題が多く挙げられた。

グループワークで話し合っている間、小林課長と小林校長には、各グループを見て回っていただき、行政や管理職の側からのご意見いただいた。

あるグループでの話し合いでは、誰がどのお金を管理していて、それぞれのお金をどういう使い方をすればよいかを把握して、全校に周知することが難しい、という課題が挙げられた。特に異動で学校が変わったりすると校内の様子がわからず大きな悩みとなる。話し合いの結果、校内で予算委員会を立ち上げ、学校が持つお金を適切に割り振ることが改善策として挙げられた。しかし、年度当初にこの委員会を持つことが難しい、という課題も挙げられた。

時間内に十分な解決策を導き出すことは難しい様子も見受けられたが、様々な地域や経験年数の方が集まって話し合うことで、客観的に課題を分析でき、ひとりでは思いつかないアイデアを聞くことができた。

・参加者からいただいた声

参加者に今回の分科会についてのアンケートを採った。以下にその一部を抜粋する。

- ・小林学校教育課長様のご講義はとてもわかりやすく、大変勉強になりました。事務職員は専門性を活かして、学校の事務を、責任をもって自己の担当事項として処理し、より主体的、積極的に公務運営に参画することを肝に銘じて業務を取り組んでいきたいと思います。
- ・福井市で行われた業務改善、とても興味深かったです。自身の市町に持ち帰り発信していけたらと思います。
- ・いつも悩んでいることを同じ校種の方と共有することで解決できる糸口が見つかったように思います。企画して下さりありがとうございました。
- ・経験年数の多少に関わらず、悩みは初歩的なレベルで悶々としている。意識を変えるというのが永遠の課題だと思う。
- ・どのグループでも同じような課題を持って話し合われていた。有効な予算執行をするために、教員への声かけ、理解を求めていくことが大事だと思う。数値として表したり、視覚に訴えたり工夫が必要。小林課長様の講演はわかりやすく、福井市の取り組みがよくわかった。ありがとうございました。

A4 版（縦 25 cm×横 16 cm以内）横書き

4 ページぐらいで

基本フォント・・・MS明朝 10.5 ポイント

表題 14 ポイント

12 月中に下記まで送付

あわら市金津小学校 齊藤紀子

E-mail saitononmail@gmail.com